

令和4年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

美しい棚田 ^{いなぐら} 稲倉～眺めるだけではない、カカワレルタナダ～

○集団等の名称 稲倉の棚田保全委員会（代表 久保田 良和）

○所在地 長野県上田市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

上田市は、長野県東部に位置する。棚田のある殿城地区は、市北東部の殿城山山麓の急傾斜地と神川沿いに及ぶ中山間地帯に分かれている。稲倉の棚田は山裾から谷あい広がる大小様々な形状で約30ha（約780枚）の水田により構成されている。

高齢化や後継者不足により耕作放棄地の増加が顕著となり、棚田の荒廃により地域の活力低下に危機感を持った地元住民たちが保全活動を開始。平成11年の「日本の棚田百選」の認定を契機に、保全活動を行うための前身組織を設立。平成15年に持続的な保全活動や地域振興活動の強化のため、周辺の自治会や市、JAと連携し「稲倉の棚田保全委員会」を設立した。

・むらづくり組織の概要

棚田保全委員会は、地元住民や他の地域団体の代表等で構成され、定例会を毎月開催し、農作業計画や交流による地域活性化に繋がる各種取組方針を議論し、合意決定している。平成30年からは委員の外部募集を始め、関東圏の都市住民や子育て世帯等の非農家層が加わり、構成員の幅は広がりを見せている。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 減農薬栽培を行い、昔ながらの「はざかけ」でゆっくり天日干しした棚田米は、豊かな香りとやさしい甘みがあり、地元店舗や直売所等で販売されるほか、上田市のふるさと納税返礼品として取り扱われている。
- ② 棚田保全の人手と資金を支えるため「棚田オーナー制度」を導入し、地元酒造会社と連携した「酒米オーナー」や気軽に保全活動に参加できる「棚田ファン」等消費者ニーズに合わせたコースを新たに展開し、会員は年々増え（令和4年度133組）、特に都市住民の増加が著しく、都市農村交流の拠点となっている。

（2）生活・環境整備面

- ① 農閑期の棚田を有効活用した棚田キャンプや、代掻きに合わせて子供達に田んぼで遊んでもらうイベント等、棚田の景観・地形等を生かした体験・交流の機会を毎年創出している。令和2年度より棚田内を松明を持って練り歩く参加型イベント「ししおどし」を開催し、地域の新たな伝統行事としての定着に努めている。棚田への観光客は年間2万人を超え、観光資源になっている。
- ② 棚田近辺にオープンしたクラインガルテン（滞在型市民農園）の指定管理を受託し運営している。農作業指導や棚田を利用した地域交流を通して、将来的には地域への移住・定住や農業の担い手育成の効果も期待される。
- ③ 首都圏や地元小学校からの学習旅行や農作業体験の受入や、棚田をビオトープとした生物多様性授業の実施等、農業・農村への理解醸成に寄与している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

棚田オーナー制度や各種体験交流イベント等、毎年新しい取組に挑戦しており、今後の発展が期待できる。棚田を地域資源として生かし、地域住民だけでなく地元企業、地域外の都市住民等の多種多様な「カカワリ」のもと地域の発展に繋げている本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。